

式 辞

本日、晴れて卒業を迎えることとなった 134 名の生徒諸君に、心からお祝いの言葉を贈ります。

保護者の皆さんや来賓の方々、そして在校生も一堂に会した以前のような卒業式に戻したいと模索してまいりましたが、いかんせん感染状況が改善しておりませんことから、本当に残念ではありますが、このような形で、時間を短縮して挙行せざるを得ませんことを、まずもって皆さんのご理解を賜りたいと存じます。

さて、今、卒業を迎えた皆さんの胸に去来している感情は如何なるものでしょうか。

楽しかった思い出やあるいは辛かった出来事、さらには勝利の喜びまたは敗北の悔しさ、皆さんの脳裏には様々なシーンが蘇っていることと思います。

それらは皆さんが、一人ひとりこの学び舎で得た貴重な経験です。なにものにも替えられない皆さんの財産であります。

それはまた誰かに与えられたものでもありません。皆さん自身が自らの手でつかみ取ったものです。ですから大いに誇りをもって構わないと思いますし、そして、今日だけは自分自身を褒めてやってもいいと思います。

ですが、褒めるのは今日だけです。なぜなら、それらはすべて過ぎ去った過去にすぎないからです。

皆さんの前にあるのは未来だけです。変えられるのも未来だけであり、過去の経験は、そのための教訓にしかすぎません。

いや、皆さんがこれから乗り越えていかなければならない社会の荒波のなかでは、教訓にすらならないのかもしれませんが。それだけ変化のスピードが速い時代を、皆さんは生き抜いていかなければならないからです。

そんな時代に皆さんに求められるのは、ゼロから 1 を生み出す力です。

何も無いところから、何かを生み出すには創造力（Creative Power）が不可欠ですが、それだけでは事は実現しません。何事も成すためには最初の一步を踏み出す勇気が肝心なのです。

失敗してもいいのです。それは失敗という 1 を生み出した結果なのですから、そこからまたやり直せばいいだけのことです。

失敗を恐れて何もやらない人生ほど、つまらないものはありません。

皆さんは、おそらく後世の人たちから「コロナ世代」というような呼ばれ方をされるでしょう。新型コロナの感染拡大で、長期にわたる臨時休業や学校行事あるいは部活の大会の中止など、満足な高校生活を過ごすことができなかった世

代、そんな風に見られるかもしれません。

しかし、皆さんはそんなコロナ禍でも楽しみを見つけながら立派に高校生活を送られたのではないのでしょうか。

今、皆さんの晴れがましい笑顔を見ていると、コロナ禍を負の問題としてとらえることは私には到底できません。

そうです。皆さんは、すでに気づかないうちに、創造力と勇気を持って、ゼロから 1 を生み出していたのです。そのことを知らず知らずのうちに学んでいたのだととらえてもいいのではないかと思いますし、それをこれからの人生にも活かしていったほしいと思います。

さて、保護者の皆様、ご子息のご卒業誠におめでとうございます。

これまで、本校の教育活動にご理解とご協力を賜り、心から感謝申し上げます。

3 年前、高校という新たなステージに期待と不安の入り交じった気持ちで入学してきたこの子達が、今、この学び舎を巣立とうとしています。

皆さんにとっては、まだまだ子供と思われているかもしれませんが、民法の改正によって 18 才以上は成人とみなされます。

しかし、全てが許されるわけではありません。飲酒、喫煙は二十歳になるまで認められておりませんので、引き続きご指導いただきたいと思います。

卒業生は 4 月からそれぞれの道を歩み始めます。幾多の試練が待ち受けていることと思います。私は、この子達なら必ず乗り越えていけるはずだと確信していますが、何かあったときに頼れる最後の砦は、やはり保護者の皆さんだと思います。親子の縁は切っても切れません。最後はあたたかく迎え入れてやっていただきたい、そのことを切にお願いいたします。

最後に、これまで毎年、卒業生には「父母恩重經」を差し上げてきました。

君達にも卒業証書と共に贈呈します。

このお経の中には、何度も「父母の恩重きこと天の極まり無きが如し」という言葉が出てきます。

親不孝な行いを戒めるために、父母の恩というものは非常に重たいものであるということを説いているのです。

卒業という一つの区切りに、あらためて親に対し感謝の気持ちを伝えてください。

以上、申し上げます。

令和四年三月一日

白樺学園高等学校長 嶋 野 幸 也

